

## 豊島区 中高生センター ジャンプ長崎

### 若者の「やってみたい」を応援する施設運営 ～高校生による麻雀活動の取り組み～

#### 取組の背景・目的

高校生より「自主企画」として麻雀をしたいとの提案があり、「利用者会議」等で高校生・職員と議論を重ねた。一定のルールを決め麻雀活動開始となる。さらに活動を広げたいと高校生からの要望があり、他施設等との麻雀交流会を実施。

公設公営の中高生施設で麻雀はOKなのか？

当初、麻雀の社会的背景やギャンブル性の観点から職員間で実施可否について意見が割れた。高校生より、頭脳ゲームとしての麻雀の魅力や学生リーグ・プロリーグなどの近年の麻雀事情を教わり、職員も麻雀協会などに問合せたりと情報をアップデート。子どもの権利擁護委員も加わり高校生と議論を重ね、一定のルールを設け麻雀活動が始まる。

活動を始めたもののメンバーが増えず行き詰まる。メンバーから、他の高校生と対戦したいとの要望があり対外活動を実施。他施設への遠征では、高校生だけでなく施設を利用する高齢者も交えた多世代交流となる。当施設での交流会では、区民ひろば（豊島区多世代交流施設）より麻雀卓を借り、本格的な麻雀を体験し盛り上がる。

#### 取組の概要

- 高校生による自主活動「麻雀部」
  - ・ 実施場所： 施設内どこでも（小学生利用時可能な時間内は、小学生がいない部屋が条件）
  - ・ 実施頻度： 不定期。高校生が希望しメンバーが集まり次第随時。
  - ・ 実施方法： 参加高校生による自主運営。  
※参加するにあたり、①高校生以上②賭け厳禁③麻雀のもつ負の側面についても理解した上で参加 を条件とする。
- 対外交流企画
  - ・ 他施設遠征 他区の中高生センターへ出向き、麻雀交流会を実施。同世代の麻雀好きな仲間と長時間楽しむ。遠征先は多世代交流施設も兼ねた施設のため、高齢者の観戦・助言も交えた交流会となった（2022/04/30）。
  - ・ 施設内交流会 麻雀部のある通信制高校の生徒が当施設に来館し交流。区内の多世代交流施設より本格的な麻雀卓を借り、本格的な雰囲気麻雀を楽しむ（2022/12/23）。

## 工夫点・留意点



当施設のある豊島区は、平成18年(2006年)に制定された「豊島区子どもの権利に関する条例」があり、第21条に「施設運営等に関して子どもの意見を聴き、話し合いの場を設けるよう努めなければならない」とある。その実現方法として、月1回「利用者会議」を実施、自由に意見を表明できる機会と雰囲気大切に心掛け取り組んでいる。また自分が興味・得意なことを他の利用者を巻き込んで活動するために「自主企画」を立ち上げるしくみがある。

麻雀活動についても、この流れを理解した高校生からの要望としての提案。高校生はスマホゲームがきっかけで麻雀に興味を持ち、ネット検索で麻雀リーグや学生連盟の存在を知るが、高校生で麻雀ができる環境がないことから職員へ相談となった。

実施にあたり、麻雀に対するイメージが職員間でも分かれたように保護者にとっても大きく異なることが考えられることから、自己の判断に責任がとれる高校生以上を参加可とした。同様の理由から、小学生が過ごす場での実施は不可とし他利用者へ配慮した。

## 取組の効果

健全育成・公共施設・中高生の居場所としての活動の在り方と、学校でも家庭でもない「居場所」として中高生の「やってみたい」を応援することについて、深く考えさせられた取り組みの過程であった。また利用者にとっても、議論を重ねる経験や意見の異なる相手を説得するための努力を経て希望が叶う経験をすることが自己肯定感を高め、一歩を踏み出す機会となった。

また、若者と関わる上で、大人の価値観や社会通念にとらわれることなく柔軟な頭で対話すること・情報をアップデートすることの大切さを実感した。

## 課題・今後の展開

活動メンバー全員が高校3年生で卒業してしまうため、活動が休止することになる。そのため麻雀に興味がある高校生を見つけ、当施設でできること・一緒にやる仲間を集めること(1人では出来ないの)をどう広げていくかが課題である。

また、麻雀のもつ負の側面も社会的には現在も存在している以上、現メンバーを含め興味を持った高校生に丁寧に伝えていくことも必要であると考えます。

今後また麻雀メンバーが増え活動が活性化していくようであれば、地域の高齢者施設などとの交流企画を実現していきたい。共通の趣味である麻雀を通じて卓を囲み世代を超えた交流ができれば、中高生施設の「地域活動」として新たな取り組みにつながり楽しみである。